

2023年11月5日

礼 拜

聖書

創世記1章1～31節

1:1 はじめに神が天と地を創造された。1:2 地は茫漠として何もなく、闇が大水の面の上にあり、神の霊がその水の面を動いていた。1:3 神は仰せられた。「光、あれ。」すると光があった。1:4 神は光を良しと見られた。神は光と闇を分けられた。1:5 神は光を昼と名づけ、闇を夜と名づけられた。夕があり、朝があった。第一日。1:6 神は仰せられた。「大空よ、水の真ただ中であれ。水と水の間を分けるものとなれ。」1:7 神は大空を造り、大空の下にある水と大空の上にある水を分けられた。すると、そのようになった。

1:8 神は大空を天と名づけられた。夕があり、朝があった。第二日。1:9 神は仰せられた。「天の下の水は一つの所に集まれ。乾いた所が現れよ。」すると、そのようになった。1:10 神は乾いた所を地と名づけ、水の集まった所を海と名づけられた。神はそれを良しと見られた。1:11 神は仰せられた。「地は植物を、種のできる草や、種の入った実を結ぶ果樹を、種類ごとに地の上に芽生えさせよ。」すると、そのようになった。1:12 地は植物を、すなわち、種のできる草を種類ごとに、また種の入った実を結ぶ木を種類ごとに生じさせた。神はそれを良しと見られた。

1:13 夕があり、朝があった。第三日。1:14 神は仰せられた。「光る物が天の大空にあれ。昼と夜を分けよ。定められた時々のため、日と年のためのしるしとなれ。1:15 また天の大空で光る物となり、地の上を照らすようになれ。」すると、そのようになった。1:16 神は二つの大きな光る物を造られた。大きいほうの光る物には昼を治めさせ、小さいほうの光る物には夜を治めさせた。また星も造られた。1:17 神はそれらを天の大空に置き、地の上を照らさせ、

1:18 また昼と夜を治めさせ、光と闇を分けるようにされた。神はそれを良しと見られた。1:19 夕があり、朝があった。第四日。1:20 神は仰せられた。「水には生き物が群がれ。鳥は地の上、天の大空を飛べ。」1:21 神は、海の巨獣と、水に群がりうごめくすべての生き物を種類ごとに、また翼のあるすべての鳥を種類ごとに創造された。神はそれを良しと見られた。1:22 神はそれらを祝福して、「生めよ。増えよ。海の水に満ちよ。鳥は地の上に増えよ」と仰せられた。1:23 夕があり、朝があった。第五日。

1:24 神は仰せられた。「地は生き物を種類ごとに、家畜や、
這うもの、地の獣を種類ごとに生じよ。」すると、そのようにな
った。1:25 神は、地の獣を種類ごとに、家畜を種類ごと
に、地面を這うすべてのものを種類ごとに造られた。神はそ
れを良しと見られた。1:26 神は仰せられた。「さあ、人をわ
れわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして
彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の
上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。1:28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」1:29 神は仰せられた。「見よ。わたしは、地の全面にある、種のできるすべての草と、種の入った実のあるすべての木を、今あなたがたに与える。あなたがたにとってそれは食物となる。

1:30 また、生きるいのちのある、地のすべての獣、空のすべての鳥、地の上を這うすべてのもののために、すべての緑の草を食物として与える。」すると、そのようになった。1:31 神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日。

説教

「創造者なる神を信ず。」

長らく創世記から族長と言われるヤコブ、ヨセフの生涯・信仰の学びをしていました。ヤコブがついにすべてのものを手放して、エジプトにいる死んだと思っていたヨセフに会いました。土地や財産を手放しても、神様の祝福を受け継ぐ器となって行くヤコブの最後の姿を学んで、一旦、族長の物語から離れます。

この祝福を与えてくださる神様を信じる事が大切。祝福を与えてくださる神様を知るために、しばらく使徒信条からの学びを始めて行きたいと願っています。まず御一緒に使徒信条を自分の信仰の告白として告白しましょう。

使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主
は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生れ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけら
れ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、三日目に死人
のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に
座したまえり。

かしこより来たりて生ける者と死にたる者とを
審きたまわん。

我は聖霊を信ず。

聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体
(からだ)のよみがえり、永遠(とこしえ)の生命(いのち)
を信ず。

アーメン

使徒信条は信仰の告白です。

父なる神様についての告白、

イエスキリストについての告白、

聖霊についての告白、

三位一体の神様を信じています、という告白です。

第一は父なる神様についての告白。
その内容が、聖書の教える神様は
天地の創り主
全能の神
父なる神
を信じると告白しています。

今日は創造主なる神を信ずと言うテーマをつけました。
使徒信条の最初のテーマ、「天地の創り主なる神」に
ついて考えて行きましょう。そのために
創世記1章を朗読いたしました。

創世記1章1節には

「はじめに神が天と地を創造された。」と書かれています。

文語訳では「元始に神 天地を創造(つくり)たまえり。」

英語では

In the beginning God created the heavens and the earth.

今日は創世記1章から
自然界の創造者なる神、
私たち人間の創造者なる神を
理解して信じていきたいと思います。
自然界の創造と人類の創造です。

まず、神は自然界を創造されました。
地球、太陽系、銀河宇宙、大宇宙を
主なる神様が創造をされたと聖書は明確に書いていま
す。

イエス様を信じている科学者も世界には沢山おられます。

科学者は地球の誕生を45億年前。

多くの学者は、銀河系を含む大宇宙の誕生を150億年前のビッグバンという大爆発により生まれ、宇宙は膨張拡張している多くの学者が唱えています。

ドップラーという天文学者がいました。

光りや音の波長を研究しておられました。

移動、走行しながら音や光りを発しているとき、周波数が変化して音声や光りに変化がある事を観察しました。

救急車が音を立てて接近すると、接近するときは高く、遠ざかる時は低くなります。

接近するときは波長が圧縮されて短く高音になり、遠ざかる時は波長が長くなって低音になります。

ハッブルという学者は天体の星を観察していました。ある星は本来の周波数、光りよりも暗くなっています。それはその星座がすごいスピードで遠ざかっている事です。色々な星が遠ざかっている。そのベクトルと速度を計算すると、なんと150億年ほど前には一つの塊であった。

その時は宇宙のすべての物質が一つに固まっていて、何かの拍子に爆発して、宇宙は現在も光速で拡張していると言うハッブルの法則を発表しました。

150億年前すべての物質が一つに固まっているので引力は巨大な引力でした。

それで、光りが出ようとしてもその光りを引き戻す、ださないう巨大な引力で、世界は闇でした。

創造者なる神は最初その巨大な塊を創られ、あるとき爆発させられました。

その時、巨大な引力が分裂によって小さくなため、光
りが出るようになりました。

神が光りよあれ、と言われて、光りが宇宙空間の中で
輝きました。

その後100億年ほどの時間の中で太陽系、その周りの惑星が形成されて行きました。

地球の軌道にある宇宙塵がぶつかり合って地球が形成されて行きます。初期の地球はO₂と言う酸素がなく殆どがCO₂二酸化炭素でした。

神様は最初に地球上に植物をお造りになりました。植物は酸素がなくても生きることが出来、光合成で炭酸ガスを酸素に変えて行きます。

炭酸ガスが覆っている地球上は雲が地球を覆い、地球全体が温室のようになる温室現象が長期間起こっていました。地球全体が高温多湿になっていましたので、地球上がジャングルで覆われるようになり、北極にも南極にもジャングルが生い茂っていて、この時の森林が石炭になって行きました。

やがて植物の光合成、炭酸同化作用により地球上の酸素濃度は上昇して行きました。しかしまだ酸素が少なかったのでO₃のオゾンはまだ少なく上空のオゾン層は十分ではありません。太陽の紫外線が直に地上に届いてまだ陸上生物は住めない状況。神様はまず水中の生物をお造りになり、強力な紫外線も水中にまでは屈折して届きません。

水中の生物は安心して生息出来ます。

やがて地上を覆っているジャングルの炭酸同化作用により地表の酸素濃度が向上して、陸上生物の生存が可能となったとき、家畜、這うものなど陸上で肺呼吸する生物をお造りになり、最後に人間を想像されました。

大地が良い環境になったとき、神様は人を創造されました。

1:26 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

人を神のかたちとして、
神に似るように人を創造されました。
これは動物の創造とは異なっています。

神に似るように、神のかたちとして創造された人間は
人格を持つ存在、知、情、意、善悪の判断の出来、
人と人との交わりが出来るものとして創造され、神様と
交わる事の出来る被造物として創造されました。
生存本能だけで生きる動物と違って、善悪の判断が
出来、神様と交わる事を喜ぶ存在として人類が創造
されました。

1:28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。
「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、
空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」
神様は人類に地に満ちよ、地を従えよ、支配せよと命
じられました。

2章ではエデンの園を耕し、種を蒔き、物に名前をつけ
るように導かれて。

物に名前をつける事は物を管理する事であります。

神様に創造された人間には使命、神様の創造された
大地を管理する使命が与えられています。

大地には大きな可能性があります。

耕して、種を蒔くことで、大地を有効に有意義に活用
することが出来ます。

大地だけでなく、私たち人間にも神様はいろいろな可
能性を与えてくださっています。

神様から与えられた人間の使命、
それは種を蒔くこと、耕す事、名前をつける事、管理
することです。

大地だけでなく、私たちの内にも神様は色々な可能性、賜物、才能を与えてくださっています。それらは眠っています。

私たちの使命は、自分を耕す事、眠っている才能を掘り起こす事、磨くことであります。

大地も耕して、種を蒔かなければ不毛のままかも知れません。

私たちの内に神様は思わぬ才能、賜物を与えてくださっています。

磨かなければ輝きません。磨けば人は輝きます。大地に種を蒔けば、花が咲き、実が実ります。

蒔かなければ花は咲きません。

愛の種、親切の種を蒔けばいつか花が咲きます。

名前をつけなさい。これは大地、自然、与えられている物質などを良く管理する事であります。

スーパーやコンビニで感心することは、すべての商品にバーコードが着いて、品番、名前がつけられて、きちんと管理されている事です。

名前、品番をつけていなければ、お店の管理は出来ません。品物がなくなれば直ぐに補充します。賞味期限が切れれば、廃棄になります。このように良く管理されているのはすべての商品に名前がつけられているからです。

神様に創造された人としての責任、使命は自然を良く
管理する事であります。

自然破壊は良くありません。

ゴミも再利用出来るように。

無駄をして廃棄する事のないように。

朝があり夕があった。

主は6日に渡って天地を創られ、7日目に休まれた。
ここから6日働いて、7日目は安息の日、主を礼拝する人定められました。

これは時間の賢い管理を主は求めておられます。

ミハエル・エンデと言う人がモモと言う本を書いて時間を良く、賢く管理する様に、時間ドロボーに時間を奪われてゆとりのない生活にならないように。

今、一番時間ドロボーが用いているのはゲーム機やスマホなどではないでしょうか。

1日は24時間しかありません。きちんと良く管理すれば、一日10分聖書を読んでも一年で全部を読むことが出来、10年続ければ10回聖書全巻を通読でき、聖書が楽しくなります。

時間も主が造られた事を覚えましょう。
時間を重ねれば人生になります。
祈りつつ時間の管理を御心に従って行って
実りある人生を送りましょう。

祈り。